

教科(科目)	国語(現代の国語)	単位数	2単位	学年(コース)	4学年 (国際科学科)
使用教科書	桐原書店『探求 現代の国語』				
副教材等	桐原書店『探求 現代の国語準拠予習復習ノート』、第一学習社『新訂七訂 新訂総合国語便覧』、尚文出版『大学入試に出た核心漢字 2500+語彙 1000』、尚文出版『3ステップオリジナル問題集 基礎現代文』、ランズ『進研WINSTEP現代文1』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①高い学力・幅広い教養・学び続ける姿勢を身に付け、グローバル(地域的・地球的)な視野から社会課題を多面的に発見・考察し、その解決に向けて挑戦・行動・発信する能力を育成します。 ②高い倫理観、他者を思いやる心、傾聴する姿勢、豊かなソーシャル・スキルを持った人物を育成します。 ③リーダーシップ・フォロワーシップを身に付け、地域社会・国際社会と協働する態度を育成します。
カリキュラム・ポリシー	①中高一貫教育を生かし、高い学力と学び続ける姿勢を身に付ける教育課程を編成するとともに、すべての教科・科目において「深い学び」を実現します。 ②読書、新聞・図書室の活用を奨励するとともに、体験活動を取り入れた教育課程により、幅広い教養を育みます。また、探究の過程を重視するとともに、最新の教育方法を積極的に活用します。 ③4技能をバランスよく育成する英語授業を実践するとともに、「生きた英語」を学習する機会としての海外研修やさまざまな発表活動に取り組みます。また、積極的に国際交流活動にも取り組んでいきます。 ④アイデンティティを形成しつつ地域理解を深め、地球的視野で自分なりの社会課題を発見し、科学的な手法を用いてその解決を目指す課題研究を6年間通じて実施します。 ⑤6年間一貫した方針による道徳や人権教育等を実施するとともに、生徒会活動、部活動、課外活動を通して、主体的・自律的に考え行動し、互いに支え、高め合いながら協働的に活動することを重視します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

大学での継続的な学びを想定している生徒が大多数を占めることから、 ① 基本的な言語事項について、表現方法や文脈を踏まえた活用ができる正確な習得を目指します。 ② 文章を的確に理解した上で、根拠を含む論理性を備えた思考力を身に付けることを目指します。 ③ 自分の思考を的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。 ④ 発展的な知識教養にも触れ、自発的に見識を深める姿勢の習得を目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・小テスト、朝テスト ・レポートやワークシートなどの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・提出物 ・自己評価や相互評価の状況などから、評価します。
内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	〈知〉のコミュニティへ	2 「A 話すこと ・聞くこと」	最果タヒ 「わからないぐらい がちょうどいい」	<ul style="list-style-type: none"> 随想を読んで、筆者のものの見方や感じ方を理解する。 言葉を通じた他者理解についての筆者の考えを読み取ったうえで、自らの経験に照らして自分なりの言語観を持つ。 	2	授業観察 発問評価 課題点検
5	体験と思索 I	6 「B 書くこと」	河合隼雄 「ふしぎと人生」 「読書は必要か?」	<ul style="list-style-type: none"> 二項対立的な内容を把握しながら、全体の構成を的確に捉える。 「物語」についての筆者の捉え方に対して、自分の考えをまとめる。 	6	授業観察 発問評価 課題点検
6	評論I	4 「A 話すこと ・聞くこと」	佐藤卓 「ほどほどのデザイン」	<ul style="list-style-type: none"> デザインを考えることを通じて「人の豊かさ」とは何か、考察を深める。 「日本のデザイン」の特長について理解したうえで、その優れた点を紹介する場面を想定し、資料を用いて発表する。 	4	授業観察 課題点検 定期考査
		3 「B 書くこと」	大岡信 「言葉の力」	<ul style="list-style-type: none"> 言葉にまつわる本文の読み取りをもとに、自分の考えを文章にまとめる。 	3	授業観察 課題点検 定期考査
7	評論II	4 「B 書くこと」	山崎正和 「サイボーグとクローン人間」	<ul style="list-style-type: none"> 二項対立による比較対照に着目し、筆者の主張を的確に捉える。 科学技術の発展が人間の考え方に影響を及ぼした例を文章にまとめる。 	4	授業観察 発問評価 課題点検
		4 「C 読むこと」	外山滋比古 「読む」 川上弘美 「神様」	<ul style="list-style-type: none"> 文学作品の解釈における読者の存在の重要性と意義を理解する。 他者との心の交流やその難しさについて考えを深める。 	4	授業観察 発問評価 課題点検
8	実社会I	3 「A 話すこと ・聞くこと」	上野千鶴子 「問いの立て方とオリジナリティ」	<ul style="list-style-type: none"> 研究活動において「問いを立てる」ことの重要性や、「問いを立てる」際の条件を理解する。 探究活動にも通用する研究への態度を養う。 	3	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
9	評論III	8 「B 書くこと」	岩井克人 「経済の論理／ 環境の倫理」 若林幹夫 「選れてきた『私』」	<ul style="list-style-type: none"> 論理の展開に着目して、筆者の主張を的確に捉える。 環境問題の現況や展望について考察し、意見をまとめる。 社会と自分との関係について考えを深める。 	8	授業観察 発問評価 課題点検
10	体験と思索 II	7 「B 書くこと」	星野道夫 「アリュेशन、 老兵の夢と闇」 長田弘 「レオーノフの帽子屋」	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の戦争に対する姿勢を参考にして、自らの考えや生きる姿勢を深める。 本文中の具体例や「I was born」が、老帽子屋の生き方とどのような関係にあるか、理解し説明する。 	7	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
11	評論IV	8 「C 読むこと」	湯澤規子 「食の履歴書」 鷺田清一 「わがろうとする姿勢」	<ul style="list-style-type: none"> 本文と引用や資料との関係を正確に捉え、筆者の主張を読み取る。 近代から現代への時代の移り変わりを、「食」の問題を通じて理解する。 「他者理解」というテーマについて、筆者の主張を読み取り、自分の考えを深める。 	8	授業観察 発問評価 課題点検
12	実社会II	3 「A 話すこと ・聞くこと」	伊藤亜紗 「目の見えない人は世界をどう見ているのか」	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障害者の空間認識のしかたを知ることによって、世界の捉え方を相対化する。 見えない人の空間の認知の仕方について考え、気づいたことを伝え合う。 	3	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
1	評論V	8 「A 話すこと ・聞くこと」	船木亨 「AIの判断」 高田明典 「言葉を学ぶとは— 『言語ゲーム』の概念」	<ul style="list-style-type: none"> 指示表現や比喩表現が指す内容を正確に押さえ、論旨の展開を把握する。 A I が普及した将来の社会においても人にか果たせない役割を考え、発表し合う。 言葉を用いる主体としてのあり方について、考えを深める。 	8	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査

2	評論Ⅵ	4 「C 読むこと」	内田樹 「歴史は『今・こゝ私』 に向かってはいない」	・筆者の提示する具体例を丁寧に読み取りながら、哲学・思想分野の評論に親しむ。 ・フーコーの歴史観を理解したうえで、歴史に対する自分の考えを見つめ直す。	4	授業観察 発問評価 課題点検
		4 「B 書くこと」	井崎正敏 「思想の出自」	・論理の展開に着目して、筆者の主張を的確に捉える。 ・敵対や対立をどのようにして乗り越えていくか、自分の考えを深める。	4	授業観察 発問評価 課題点検
3	実社会Ⅲ	2 「A 話すこと ・聞くこと」	大竹文雄 「納税は義務か」	・本文の内容を踏まえ、日本社会をよりよくするための施策を話し合い、話し合ったことを発表する。	2	授業観察 発問評価 課題点検

計70時間 (50分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 22 時間	B「書くこと」 32 時間	C「読むこと」 16 時間
-----------------	-----------------------	------------------	------------------

7 課題・提出物等

- ・家庭学習用の課題を適宜指示します。
- ・各単元の特性に応じた、発表やレポート作成等の時間を設定しています。
- ・長期休業中の課題について別途指示します。

8 担当者からの一言

「現代の国語」は、鉛筆を手に「読み、考え、書き」、辞書を「引き」、相手に向かって「話す・聞く」、という作業を積み重ねていく科目です。地道な作業のために、すぐには成果の出ない積み重ねかもしれませんが、積極的に取り組んでいきましょう。動かした手、めぐらせた思考によって培われた読解力・表現力・論理的思考力・コミュニケーション能力は、すべての科目の基礎としてだけでなく、あなたの「生きる力」の基盤になります。主体的に学ぶ姿勢を崩すことなく、広い視野を持って日々の学習に取り組みましょう。(担当：阿部友)